



戦後ノ貿易ト國際經濟戰(2)

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 21(1):57-84

(Issue Date)

1916-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052553>



戰後ノ貿易ト國際經濟戰 (其二)

神戸高等商業學校教授

法學博士 津村 秀松

一二

以上述べた如ク、金利ノ上カラ考ヘテモ、賃銀ノ上カラ觀テモ、何レガ戰後ノ歐洲ニ於ケル各種生産費ノ膨脹ヲ豫言スルモノタラザルナシトイフ有様デアアル。トロガ戰後ノ歐洲ニ、各種生産費ノ膨脹ヲ齎シ來ル原因ハ、決シテコレ丈ケデハナイ。此外ニ尙ホ左記ノ諸原因ガ加ハルノデアアル。

- 一、通貨ノ膨脹ニ伴フ一般物價ノ騰貴
 - 二、各種ノ租税ノ重課、殊ニ關稅ノ増徴
 - 三、運輸交通機關ノ不備ト運賃ノ不廉
- 以下順次其ノ然カル所以ヲ説明シヤウ。

一三

今ヤ歐洲ノ諸交戰國ハ、何レモ其ノ戰費ノ支辨ヲ主トシテ公債ノ募集ト、中央銀

行ヨリノ借入金トニ仰イデキル。ソコデ、各國與ニ通貨、殊ニ其ノ内ノ多數國家ニハ不換紙幣ノ膨脹ガ、既ニ莫大ナル高ニ達シテキル。此先キ戰爭ガ尙ホ止マナイト、之ガ益々膨脹スルニ相違ナイ。ソコデ、其ノ當然ノ結果トシテ、各國與ニ一般物價ガ既ニ著シキ騰貴ノ傾向ヲ示シテキル。試ミニ「エコノミスト」ノ調査ニ基キ、英吉利ニ於ケル最近ノ諸物價指數ノ變遷ヲ表示シテ見ルト、大要左ノ如キモノガアル。

英吉利ノ物價

年 月	穀物及肉類	其他ノ食物 (茶砂糖等)	織 物	礦 物	雜 護謄、材 木油等	合 計	百分率
標準(一九二一年乃至一九二五年平均)	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇
一九一四年	五二二五	五二六〇	六六二〇	五〇二〇	五七五	二六八〇	一三〇
一 月	五三三五	五三二〇	六六〇〇	四九一五	五六〇	二六二六〇	一八九
二 月	五三〇〇	五三〇五	六六五	四九三〇	五六〇	二五九七〇	一八〇
三 月	五〇〇〇	五〇六〇	五三三五	四八二五	五六一〇	二五八五〇	一七五
四 月	五〇〇〇	五〇六〇	六四四五	四八〇〇	五五一〇	二五九五〇	一八〇
五 月	五〇〇〇	五〇六〇	六四四五	四七一五	五五一〇	二五九〇	一五九
六 月	五〇〇〇	五〇六〇	六六五	四六四五	五五一〇	二五九五〇	一六六
七 月	五〇〇〇	五〇六〇	六六五	四六四五	五八一〇	二六九八〇	一三六
八 月	五〇〇〇	五〇六〇	六六五	四六四五	五八一〇	二六九八〇	一三六
九 月	五〇〇〇	五〇六〇	六六五	四六四五	五八一〇	二六九八〇	一三六
十 月	五〇〇〇	五〇六〇	六六五	四六四五	五八一〇	二六九八〇	一三六

十一	月	六三〇	四七五	五二〇	四七五	六八五	二七〇	二五五
十二	月	七四〇	四四五	五九〇	四七〇	六八五	二八〇	二七五
一九一五年	月	六六〇	四三〇	五五〇	五二〇	七四〇	三〇〇	一六五
二	月	八四〇	四一〇	五五二五	五六一五	七二〇	三二〇	一四二五
三	月	八四〇	四二〇	五九七〇	六四四〇	七九七〇	三〇五〇	一五〇二
四	月	八四七〇	四九五	五九四五	六〇〇	八二六〇	三三七〇	一五二二
五	月	八九三〇	四七〇	五八三〇	六〇〇	八二四〇	三三七〇	一五二二
六	月	八八〇	四二〇	六〇〇	六四〇	七九〇	三三〇	一四七七
七	月	八三八五	四四〇五	六〇三〇	六五〇	七四〇	三八〇	一四九二
八	月	八四一〇	四三八五	六二六〇	六〇五	七六〇	三九六〇	一四九八
九	月	八〇九五	四〇五	六六七〇	六九五	七九五	三三六〇	一五二六
十	月	八四〇	四四五	六八一〇	六二五	七二〇	三三七〇	一五三二
十一	月	八七五	四四〇	六九二〇	六七五	八六〇	三五〇〇	一五九二
十二	月	八九七〇	四四六〇	七三二〇	七二五	八四八五	三六四〇	一六五二

是ニ由ツテ之レヲ觀ルト、英吉利ニ於ケル昨今ノ一船物價ハ、一九〇一年乃至一九〇五年ノ平均指數ニ對シテ、六割五分ノ騰貴デアル。開戰期タル一九一四年七月ノ指數ニ比シテモ、既ニ彼レ是レ四割二分ノ騰貴デアル。就中、穀物及ビ肉類ノ如キハ五割五分ノ暴騰デアル。尤モ、之ハ戰爭ニ基ク需要供給ノ不平均ニ由來スルトコロ少カラザルモノデアルガ、諸色ヲ通ジテ略ボ均一ノ騰貴ヲ見ルトイフコトハ、通貨

ノ膨脹ニ原因スルトコロモ亦少カラザル旨ヲ說クモノト謂ハネバナラス。

一四

尤モ英吉利ヲ初メ、各交戰國ニ於ケル通貨ノ膨脹ハ、何レモ戰後ニ於テ收縮セラ
ルベキモノデアル。殊ニ不換紙幣國タル國ニ於テハ、戰後ハ是非トモ公債ノ募集ニ
ヨツテ、之ヲ銷却シ行カネバナラスカラ、戰後何時マデモ、斯カル物價ノ騰貴ヲ維持
スルモノトハ考ヘラレヌ。ガ然シ、何レノ國モ、通貨膨脹ノ高ガ既ニ莫大デアル丈ケ
ニ、戰後俄ニ之ヲ收縮スルコトハ至難デアル。兌換ヲ開始スルニ就テハ、ソレ相當ノ
正貨ヲ準備セネバナラストイフ點カラ見テモ、戰後ノ經營ニ要スル莫大ナ資金ヲ
更ニ公債ノ募集ニ待タネバナラスカラ、金融ノ逼迫ヲ恐ル、トイフ點カラ言ツテ
モ、又左様ナ譯デアルカラ、公債ノ手取金ヲ更ニ經費ニ當ルコトノ出來ヌ不換紙幣
ノ銷却ノ爲メノ應債ヲ躊躇スルトイフ上カラ考ヘテモ、更ニ又通貨ノ收縮ニ應ジ
テ物價ノ下落ヲ招ク爲メニ財界ヲ混亂セシメ、企業界ヲ畏縮セシムルトイフ上カ
ラ思フテモ、到底、迅速ナル通貨ノ收縮ヲ見ルコトガ出來ヌ。ダカラ、此戰爭ガ間モナ
ク終結ヲ告ゲテモ、一般ニ騰貴シタル歐洲ノ物價ガ俄ニ下落シテ、平調ニ復スルコ
トハ、至極困難デアアル。果シテ然リトシタナラバ、戰後ニ於ケル歐洲諸國ノ生産費ハ

此點カラデモ、俄ニ戰前ノ如クナル能ハザルモノダト見ネバナラス。

ソレニシテモ、戰時無暗ニ膨脹シタル通貨、殊ニ不換紙幣ヲ何時マデモ、戰時ノマニ致シテ置ク譯ニハ行カヌ。早晚、公債ノ募集ヲ初メ、其ノ他適當ナル手段方法ヲ講ジテ、之ヲ回收シ、又ハ之ヲ銷却セネバナラス。サスレバ、戰時ニ暴騰ヲ告ゲタ諸物價ハダン／＼ニ下落シ行クコトニ成ルガ、斯ク諸物價ガダン／＼ニ下落シ行クトイフコトハ、又一般ノ企業界ヲシテ自カラ畏縮セシメザルヲ得ナイ成行ヲ見ルモノデアアル。戰爭ニヨツテ無暗ニ膨脹セシメラレタ通貨ハ、早晚縮少ノ運命ヲ見ネバナラスモノダトイフ見込ダケデモ、既ニ人氣ヲ腐ラカスモノデアアルノニ、搗テ、加ヘテ、愈々縮少ノ機運ガ現ハレテ來テ、ソレニ伴フテ、物價下落ノ趨勢ガ明カナツテ來ルト、更ニ一段ト人氣ヲ銷沈セシムルモノデアアル。何レノ國デモ戰後ニハ免レ難イ金融界ノ恐慌ナドガ、此上ニ更ニ加ハルコトニデモナルト、ソレこそ一般企業界ノ恐慌トナツテ更ニ一段ノ混亂ヲ見ナイトハ云ヘヌ。凡ソ此種ノ事アルハ、各交戰國トモニ充分ニ心得テ居ルトコロデアアルカラ、戰後ハ之ニ對シ周到ナル豫防ノ策ヲ講ズルデアラウガ、今回ノ戰爭ハ、是レ迄ノ戰爭ト違ツテ、所謂振古未曾有ノ大戰デアアルカラ、其ノ既ニ財界ヲ混亂セシメタルトコロ、深且ツ大デアアル爲メニ、戰後

ヲ無事ニ經過シヤウトイフコトハ、殆ンド絶望ト申シテ差支ナカラウト思フ。

一五

又今回ノ戰爭後ニハ、歐洲各國トモニ必ズヤ各種ノ租税ノ増徴ヲ見ルニ相違ナ
イ。交戰中英吉利以外ノ國デハ、戰費支辨ノ必要ニ迫ラル、コト急ナルニ拘ラズ、之
ヲ租税ノ増徴ニ埃ツコトヲ、成ル可ク避クルトイフ政策ヲ採ツタノハ、一時ニ巨額
ノ收入ヲ要スル戰費ノ支辨ニ對シテハ、租税ハ如何程之ヲ増徴シテモ、僅ニ其ノ一
部ヲ補足スルニ過ギナイモノデアルトノ考ヘニ支配サレタコトニモヨルノデア
ルガ、主トシテハ、一旦平和克復ノ曉ニ、戰後ノ經營及ビ財政ノ整理ニ就キ、是非トモ
恒久的財源デアルトコロノ各種租税ノ増徴ニ期待セネバナラヌトイフ覺悟アル
ガ爲メデアル。即チ戰後經營ニ對スル財源保留ノ政策ニ過ギナイノデアアル。ダカラ
戰後ニハ、各國トモニ各種租税ノ増徴ヲ免レナイノハ、火ヲ賭ルヨリモ明カナルト
コロデアル。

今回ノ戰爭ノ結果、各交戰國與ニ、戰時戰後ヲ通ジテ、莫大ナル公債ノ募集ヲ見、又
見ネバナラヌトイフコトヲ、既ニ曩ニ説明シタガ、此ノ如クシテ膨脹シ來ル公債ノ
利拂トイフコト丈ケニテモ、尙ホ戰時戰後ノ租税ノ増徴ヲ免レナイトイフコトヲ

一ト通り説明シヤウ。曩ニ引用シタ丁抹コツペンハーゲンノ戰時經濟調查會ノ報告ニヨルト、此戰爭ガ本年八月迄續ク場合ニ生ズル各交戰國ノ公債(其ノ高ハ既ニ前號ニ掲ゲタ)ノ利子ガ又莫大ナモノニナル。其ノ大要ヲ掲グルト、左ノ如キモノガアル。

國名	戰前	本年一月	本年八月
英吉利	二二〇 百萬元	八六〇 百萬元	一、二四〇 百萬元
佛蘭西	五三〇	一、〇〇〇	一、二五〇
露西亞	四五〇	一、〇八〇	一、四五〇
獨逸	一七〇 百萬元	二六〇 百萬元	三三〇 百萬元
伊太利	一七〇 百萬元	二六〇 百萬元	三三〇 百萬元
埃太利	一八五	一、二二五	一、〇〇〇
獨逸	一八五	一、二二五	一、〇〇〇
埃太利	一八五	一、二二五	一、〇〇〇

(備考) *獨逸ノ部ハ獨逸帝國ノ分ダケデアル。

是レデ觀ルト、本年ノ八月ニハ、英吉利ノ公債ノ利拂總高ガ、戰前ノ五倍六分、佛蘭西ハ二倍三分、露西亞ハ三倍二分、伊太利ハ二倍、獨逸ハ十四倍四分、埃太利、匈加利ハ三倍一分トイフ割合デ、各激増スル譯ニ成ツテキル。但シ、此統計表ニ就テ、其ノ後、エコノミストノ論評スルトコロヲ見ルト、獨逸ニハ、帝國ノ公債以外ニ、各邦ノ公債ガ、戰前ニ約七拾五億圓アツテ、其ノ利子年額ガ約三億圓ニ達シテ居ツタカラ、假リニ此分ハ現戰爭中少シモ増加スルコトナシシテモ、本年八月ニ至ツテノ獨逸全體ノ公債ガ、合計參百貳拾億圓、ソレニ對スル利子ガ拾五億貳千五百萬圓ニ達スル筈デアル。又英吉利ノ分ハ、先頃、マツケナー藏相ノ試ミラレタ本年度豫算説明ニヨツテ推算スルト、本年八月ニ於テノ英吉利ノ公債總額ガ貳百六拾壹億圓デ、其利子ガ拾

壹億圓トナル勘定デアルトイフテキル。シテ見ルト、獨逸ニ於ケル公債利子増加ノ割合ハ、十四倍四分デナクテ唯ノ四倍デアリ、又英吉利ノハ、五倍六分デナクテ唯ノ五倍デアルトイフ譯ニナル。

然シ、ソレハ何レニシテモ、今回ノ戰爭ニヨツテ、各交戰國トモニ、公債ノ増加、從テ公債利子負擔ノ増加ガ、何レモ空前ノ巨額ニ上ルモノデアルコト丈ケハ確デアル。コレニ就テ、改メテ言フマデモナイコトデハアルガ、經常歲出ト成ルベキ公債ノ利子ハ、之ヲ經常歲入タル租稅ニ待タネバナラヌノガ、財政學上ノ原則デアルカラ、戰後ノ各交戰國ニ於テハ、此方面カラ丈ケデモ、アラユル租稅ノ増徴又ハ新設ヲ見ネバナラヌ筈デアル、而モ此ノ如クシテ早晚生ズベキ各種租稅ノ負擔ノ決シテ輕カラザルモノナルコトハ、更ニ之ヲ各國ノ國民所得及戰前ノ歲計ニ對比スルト、ヨク分ルノデアアル

次表ハ前表同様ニ、丁抹ノ戰時經濟調査會ノ調査報告ニヨルモノデアアル

國名	國民所得	戰前歲計	公債利子	國民所得ニ對スル公債利子ノ割合	戰前ノ歲計ニ對スル公債利子ノ割合
英吉利	二二、〇〇〇 百萬圓	一、九八〇 百萬圓	一、二四〇 百萬圓	〇・五六	六・二六
佛蘭西	一四、六〇〇	二、〇八〇	一、二五〇	〇・八六	六・〇一
露西亞	—	三、七〇〇	一、四五〇	—	三・九二
伊太利	四、〇〇〇	一、〇四〇	三三〇	〇・八二	三・一七

獨逸	二〇、〇〇〇	一、七五〇	一、二二五	〇・六一	七・〇〇
匈	六、二五〇	二、二〇〇	一、〇〇〇	一・六〇	四・五〇

此後年々支拂ハチバナラヌ公債ノ利子ガ戰前ノ歲計ニ比シテ斯ク重キ割合ヲ持ツコトニナリ、又國民所得ニ比シテモ輕カラヌ割合ヲ保ツコト上記ノ如クデアツテ見ルト、之ヲ各種ノ租税ノ形式ヲ以テ徵收セラル、曉ソレガ是等諸交戰國ノ企業又ハ各種生産品ノ生産費ノ上ニ及ボス影響ハ至大ナルモノデアルト謂ハチバナラヌ。

一六

ソレモ公債ノ利子ダケノコトナラバ、マダ宜シイガ、各交戰國トモニ戰後ニハ是非トモ各種租税ノ増徴ニヨツテ支辨シテ行カチバナラヌモノガ、此ノ外ニ、尙ホ減債ノ資金(英吉利ノヤウニ、減債基金制度ヲ設クルト否トニ拘ラズ、毎年相當ノ減債ヲ爲シ得ベキ丈ケノ資金ヲ要スル)ト、不具癘疾者、戰死者ノ遺族、其ノ他一般ノ出征軍人軍屬ニ對スル恩給年金トノ二ツガアル。尤モ此種ノ支出ハ、何レモ戰後相當ノ時期ニ達スルト、漸次減少スベキ性質ノモノデアアルガ、又戰爭ノ繼續スル間ハ日ニ月ニ増加シ行クベキ性質ノモノデモアル。ダカラ、今回ノ如キ大戰爭ガ此後モ尙ホ當分繼續スルトスルト、コノ三種ノ支出ダケデモ、莫大ナル金額ニ達ス

ルニ相違ナイ。ソコデ、ソレヲ支辨スル爲メノ唯一ノ財源タル租税ハ、勢ヒ誅求ヲ免レヌ譯ニナル。

英吉利ノ立場カライフト、稍々今回ノ戰爭ニ比敵スベキ戰爭デアツタトコロノ彼ノ一七九三年乃至一八一五年ノナポレオン戰爭ニ於テ、英吉利ノ直接戰費ガ八億三千一百萬磅ニ達シタ。之ヲ支辨スル爲メニ募集シタ公債ガ、總計約四億四千萬磅デ、直接戰費ニ對スル公債支辨額ガ五割三分、他ノ四割七分ハ租税其ノ他ノ收入ニヨツタモノデアツタガ、戰前ト戰後ニ於ケル一箇年平均一人ノ租税負擔額ガ二十志カラ七十志ニ増加シタ。又戰前ト戰後ニ於ケル一箇年ノ國民所得ヲ比較調査スルト、戰前ニハ二億五千萬磅^(十七人割)デアツテ、戰後ニハ三億五千萬磅^(十八人割)ニ増シタガ、ソレニモ拘ラズ、各種ノ租税トシテ徵收サレタ金額ノ國民所得ニ對スル割合ガ、戰前ニハ百分ノ六デアツテ、戰後ニハ百分ノ二十二上ツタ。既往ノ戰爭ハ必ズシモ今回ノ戰爭後ヲ計ルノ材料トハナラナイシ、又戰爭ニヨツテ直接間接ノ戰費總額ニ對スル公債支辨額ト租税負擔額トノ割合ノ相違モ見ルコトデアハアルガ、何レニシテモ、今回ノ如キ大戰爭ノ後ニ於テ、各交戰國トモニ、少クトモ公債ノ利子ト、減債ノ資金ト、恩給年金ト、此三口ダケハ、是非トモ、戰後ニ租税ニヨツテ支辨セネバナ

ラナイモノダトシテ見ルト、戰後ノ各交戰國民ノ頭上ニハ、永ク又ハ重ク、各種租稅ノ負擔ノ到來アルベキヲ豫想スルコトガ出來ル。ソシテ、ソレハ、何等カノ形式デ戰後ニ於ケル各交戰國ノ企業又ハ各種生産ノ上ニ、少カラザル影響ヲ齎シ來ラズシテハ止マヌノデアル。

一七

以上ハ專ラ財政上ノ理由カラ、戰後ノ歐洲諸交戰國ニ著シキ租稅ノ増徴ヲ見ルトイフコト及ビソレガ一般企業又ハ生産ノ上ニ及ボス壓迫ノ程度如何トイフコトヲ考ヘタノデアルガ、斯カル財政政策上ノ理由ニ出ヅルモノ以外ニ、更ニ又商業政策上ノ理由ニ基ク租稅ノ増徴アルコトヲモ知ラネバナラス。即チ戰後ノ國費ニ對スル收入増加ノ必要上カラノミデナク、又戰後ノ經濟戰ニ處スル國產保護ノ必要上カラモ、租稅ノ増徴ヲ見ル機運ニアルモノデアル。尤モ之ハ其ノ當然ノ性質上專ラ關稅ノ上ニ現ハレテクルモノデアル。

一體戰後ノ歐洲ハ今回ノ戰爭ニ基ク各種ノ教訓ヤラ、刺戟ヤラ、又反動カラシテ一般ニ保護貿易的色彩ヲ濃厚ナラシムルニ至ルニ相違ナイ。ソノコトハ、既ニ拙稿「戰後ノ經濟戰ト貿易思潮ノ變遷」（大阪朝日新聞大正五年二月八日以後連載）ニ於テ說クトコロアルカラ、茲ニハ

之ヲ再ビセナイガ、戰後ノ國際經濟戰ニ處スル準備トシテ、同盟軍ノ方デハ、既ニ早クモ北海カラ遠ク波斯灣頭ニ跨ル所謂中歐關稅同盟ナルモノ、計畫ヲ進メツ、アル一方ニ、之ニ對シテ聯合軍ノ側デハ、近ク巴里ニ經濟會議ヲ開催シテ、アハヨクバ味方同志ノ一大經濟同盟ヲ組織シヤウトシテキル。カト思ヘバ、又英吉利ノ方デハ、戰後ノ經濟策ノ一ツトシテ、イヨ／＼彼ノチャンパーレンノ遺策タル諸植民地トノ間ノ特惠關稅制度ヲ布カウトイフ說ガ益々有勢ニナリツ、アルトイフヤウナ譯デアル。シテ見ルト、兵戰ノ後ニハ經濟戰ガ來リ、其ノ經濟戰ノ武器ハ正シク關稅デアルカノ豫想ガ、今ヨリ略ボ付キ得ルノデアル。ソシテ此種ノ機運ハ、言フマデモナク、今回ノ歐洲戰ニ胚胎シテ居ル丈ケニ、何レモ其ノ中心ハ歐洲諸國ニアル。ダカラ、戰後ノ歐洲諸國ハ關稅ノ擁護ニヨツテ、利益スルトコロモアラウガ、同時ニ、之ガ爲メニ、一般ニ輸入品ノ騰貴トナツテ、此方面カラモ、亦一般ニ生産費ノ増加ヲ齎シ來ルベキ運命ノ下ニ在ルモノダト見ネバナラス。

一八

今一ツ、戰後歐洲ニ於ケル各種ノ生産費ヲ高カラシムルモノハ、交通機關ノ破壊ニ基ク一般運輸ノ不便ト不廉トデアル。ソレニ就テハ、先ヅ戰後ノ船腹ノ過不足ト

イフコトヲ考ヘネバナラヌ。ロイドノ調査ニヨルト、今回ノ戦争前ニハ、世界ニ於ケル船舶ガ約四千四百萬噸デアツタ。若シ今回ノ戦争ガナカツタナラバ、新造船ノ内カラ、難破及ビ其ノ他ノ原因ニヨル船舶ノ減少ヲ差引イテモ、尙ホ且ツ一年ニ約二百萬噸内外ノ増加アルベキ勘定デアツテ、ソシテ是レ丈ケノ船舶ノ増加ガアツテ初メテ年々ノ世界ノ生産及ビ貿易ノ増加ニ伴フコトガ出來ルノデアツタ。然ルニ一昨年ノ七月以來ハ、歐洲戰亂ノ爲メニ船舶ノ増加ドコロカ、開戦後一箇年ニシテ潜航艇及ビ水雷等ノ爲メニ葬リ去ラレタモノガ、約百二十五萬噸、難破及ビ其ノ他ノ普通ノ原因ニヨツテ失ハレタモノガ、約七十五萬噸、合計約二百萬噸ノ船舶ノ減少ニ對シテ、新造船ガ平年ノ三分ノ一タル百萬噸内外デ、差引百萬噸許リノ減少トナツタ。又其ノ後戰局ノ進ミ行クニ連レ、新造船ノ割合ガ益々減少スル一方ニ、直接間接ニ戦争ニ原因スル遭難船ノ割合モ亦追々殖ヘテ來タカラ、開戦以來過去二十箇月ノ間ノ世界ノ船舶ノ減少高ハ、恐ラク二百萬噸ニ近キモノデアラウ。サスレバ之ヲ戰前ニ於ケル世界ノ船舶ノ總噸數ニ比シテ、約五分ノ減少ト見ネバナラス。然カシ、實際ニ於ケル世界ノ船舶ノ減少ハ、決シテ是レ丈ケデハナイ。海運界ノ「オーションリチャー」ト稱セラル、Joseph Davies 及 C. P. Hailey ノ “Shipping and Freight in 1916”

(國民經濟雜誌第二十卷第四號田崎教授譯歐洲戰亂ト海運界)

ニヨルト、遭難船以外ニ、此戰爭中、捕獲拿捕セラレタモノガ、同盟軍ノ側デ、百三十萬噸、聯合軍ノ側デ、二十五萬噸、中立港ニ、避難シタモノガ、同盟軍ノ側デ、三百萬噸、聯合軍ノ側デ、百萬噸、拿捕ヲ恐レテ本國ノ各港及ビバルチツク海ノ運送ニノミ從事シツ、アルモノガ、同盟軍ノ側ニ於テ、百七十五萬噸、戰時徵發ヲ受ケタモノガ、聯合軍ノ側デ、四百萬噸デアル。以上合計、千百三十萬噸ノ船腹ハ、戰時中世界ノ海運界カラ無クナツタモ同様ノモノデアツテ、ソレガ戰前ニ於ケル世界ノ船舶ノ總噸數ニ對シテ、約二割六分ニ當ルノデアアル。此高ト遭難船ノ高トヲ合セバ、今ヤ世界ノ船腹ハ、此戰爭ノ爲メニ、既ニ三割ヲ減シタモノトナルノデアアル。更ニ最近「ロイド」ノ調査ニヨルト、モウ一段進ンデキル。即チ開戰以來、徵發、擊沈難破、拿捕抑留サレタル世界ノ船舶ガ、既ニ合計一千六百萬噸ニ達スルトイフコトデアアルカラ、此間ニ於ケル新造船ヲ勘定ニ入レテモ、今ヤ世界ノ船腹ハ、此戰爭ノ爲メニ、三分ノ一以上ヲ失フタ割合ニナツテ居ル。

尤モ、此内ノ大部分ハ、今回ノ戰爭ノ爲メニ、一時世界ノ海運界カラ脱退シタ丈ケノモノデ、戰後ニハ再ビ世界ノ海運ニ從事シ得ルモノナノデアアル。ガ然シ、ソレガ戰後出デ、世界ノ海運ニ從事スルニ就テハ、孰レモ皆一應船渠ニ入ツテ一通リ大修

繕ヲ施スヲ要スルモノデアル。然ルニ戰後ニナツテモ、各國ノ船渠ニハ自カラ限リアルシ、修繕ニ要スル材料ナリ、又船渠ニ於ケル人足及ビ職工モ戰前ノ如クデナイカラ、コレ丈ケノ船舶ガ一時ニ復活スル譯ニハ參ラス。ソコデ其ノ間ハヤハリ世界ノ船腹ニ大ナル不足ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアル。此ノ先キ、戰爭ガ尙ホ永ク續クト、戰後ニ至ツテノ此ノ不足ガ、更ニ一層著シキモノアルニ至ルト斷定セザルヲ得ナイ。

一九

殊ニ此點ニ就テ關係スルトコロ大ナルハ、獨逸ノ潛航艇政策ナノデアル。獨逸ハ米國カラ前後數回ニ互ル抗議アルニ拘ラズ、英吉利ニシテ封鎖政策ヲ改メザル限リハ、ドコマデモ、潛航艇ヲ以テ敵國ノ商船ヲ襲撃スル方針ヲ改メナイト斷言シテキル。此方針ハ、他ニモ重大ナ理由アルノデアルガ、一ツニハ、此戰爭中、其ノ力ノ及ブ限リ、潛航艇ヲ以テ、世界ノ商船殊ニ英吉利ノ商船ヲ擊沈シ置キ、平和克復ノ曉ニ於テ、自國ノ港灣ニ潛メル船舶ト、中立國ノ港灣ニ在ル獨逸ノ船舶トヲ以テ、一舉ニ英國ヲ凌駕シ、戰後ニ於ケル世界ノ海上權ト貿易權ヲ壟斷シヤウトイフ野心ニ出ツルモノダト噂サレテキル。近頃、此ノ恐ルベキ野心ニ氣ガ付イタ聯合國デハ、亦努メ

テ其ノ裏ヲ搔カウトシテキル。即チ聯合國ノ方デモ獨逸ノ潛航艇政策ニ倣フ傍ラ普ク中立國ヲシテ聯合軍ニ參加セシメヤウト試ミテ居ル。コレハ、必ズシモ其ノ兵力的援助ヲ得ヤウトイフノデナク、實ハ夫等ノ國ノ港灣ニ潛ンデキル獨逸ノ船舶ヲ沒收セムガ爲メナノデアルト稱セラレテキル。先キ頃葡萄牙ガ聯合軍ニ參加ノ宣言ヲ下スト與ニ、其國ノ各港灣ニアツタ獨逸ノ船舶約二十萬噸ヲ沒收シタノガ其ノ一例デアアル。頃日、巴里デ開カレタ聯合軍側ノ國際經濟會議ニ於ケル協議事項ノ内ニ、廣ク中立國ノ參加ヲ勸誘セムトノ一項ノ含マレテキルノモ、亦一ツニハ此計畫ニ發スルモノナノデアアル。ソコデ、敵味方雙方共ニ、斯様ナ方針ニ出ヅルコトノ結果、現在ノ國際戰ガ、一面ニ於テ、國際船舶戰タル實ヲ現ハスコトニナルト、ソレハ益々戰後ニ於ケル世界ノ船舶ノ不足ノ上ニ、一步ヲ進ムルモノト見ザルヲ得ナイノデアアル。

二〇

然シ、ソレハ何レニシテモ、世界ニ於ケル船腹ノ不足ガ、戰時ノ如ク、然カク戰後ニ於テ甚シキヲ致ストハイヘナイ。戰後ニハ、戰時ニ比シテ、船腹ノ増加ヲ來タス一方ニ、船腹ニ對スル需要ノ減退ヲ見ルカラ、運賃ノ下落ハ必至ノ勢ヒト謂ハネバナラ

ヌ。唯ソレガ Joseph Davies や C. P. Hailey ノ所見ノ如クニ急轉直下ノ勢ヒデアルカハ甚ダ疑問デアルト思フ。過去ニ於ケル世界ノ景氣ノ變轉ト運賃ノ變動ニ關スル統計的研究ノ結果ニヨルト、運賃ノ變動ハ常ニ景氣ノ變轉ニ後ル、コト一年若クハ一年以上ナル場合ガ多イ。加之戰後ハ俄ニ出荷ノ増加ヲ見ナイニシテモ、世界ノ海運國タル英獨佛伊等ガ互ニ戰フ今回ノ戰爭ノ結果ハ、戰後ニ於ケル世界ノ船腹ノ不足ヲ起サズシテハ止マスノデアル。

尤モ、之レガ爲メニ、戰後ニ至ルモ尙ホ戰前ニ比シテ運賃ノ不廉ニ苦シムトイフコトハ、世界一般ノコトデアル。ガ然シ、今回ノ戰爭ニヨル遭難船ナリ又ハ脫退船ナリハ、專ラ歐洲諸交戰國ノ船舶デアツテ見ルト、戰後ト雖モ、船舶不足ノ中心ガ歐洲市場デアラネバナラス。ソゴデ又戰後ニハ歐洲諸國ノ貿易ガ最モ多ク海運ノ不便ト不廉ニ苦シメラル、モノト見ルベキデアル。少クトモ、遠ク海路ヲ經ネバナラス東洋ヤ南洋ノ市場ニ於テ、我國ナド、競爭スル上ニ、少カラザル不利ヲ、此方面カラ受クルモノト見ルベキデアラウ。現ニ去ル五月十三日倫敦「タイムズ」ハ、其ノ紙上ニ於テ、今ヤ日本ノ船主等ハ孰レモ莫大ナル利益ヲ占メツ、アル。之レガ爲メニ、戰後東洋ニ於ケル英國ノ海運業ハ衰微ヲ來スデアラウシ、又ソレガ爲メニ此方面ニ於

ケル貿易ニモ、少カラヌ打撃ヲ被ムルダアラウト危惧セザルヲ得ナイ」ト論ジテキル。而モ、戰後歐洲諸國ノ貿易ガ運輸上ニ於テ苦シムトコロハ、獨リ海運丈ケノコトデハナイ。大陸諸國ヲ通ジテノ鐵道ナリ、道路ナリ、運河ナリ、河川ナリ、電話ナリ、電信ナリガ、皆ソレト破壊サレテ居ルカラ、之ヲ元ノ通りノ交通機關ニ復舊スルマデハ、陸運ノ上ニ於テモ亦アラユル不便ト不廉ニ苦シメラレザルヲ得ナイノデアル

一一

次ニ企業ノ方面ハ如何デアルカトイフト、一時ナガラモ資本ガ不足トナツテ金利ガ騰貴シ、勞力ガ缺乏ヲ告ゲテ賃銀ガ高クナリ、之ヲ元ノ通りニ引キ下ゲヤウトスル試ミガ、左ナクモ勞働紛争ノ機會多カラムトスル戰後ニ、更ニ一層ノ紛擾ヲ齎シ來ルベキ氣配ガアルトスルト、一國內ニ於テハ兎ニ角國際間ニ於ケル企業ノ競争ニハ、甚ダ不利益トナラザルヲ得ナイソレニ、公債ノ激增、租税ノ重課モ加ハルカラ、諸株式ガ一般ニ下落セザルヲ得ナイ。又一般物價ノ騰貴、關稅ノ増徴、各種交通機關ノ不備ト不廉ハ、相俟ツテ更ニ生産費ヲ増加セシムル原因トナルノデアル。斯ウナルト、他ニ別ニ有力ナル刺戟ガ起ラナイ限り、何レノ事業モ、一時沈衰ヲ免レナイノデアル。又現在ハ、所謂「工業上ノ動員」ニヨツテ、主ナル工業ガ戰時狀態ニ引キ直サ

レテ居ル。英吉利ダケデモ、其ノ種ノ工場ノ數ガ約七百ニ達スルトイフコトデアル。獨逸ヤ、佛蘭西アタリデモ略ボ同様デ、或ハ其割合ニ於テハ一層大デアルカモ知レヌ。ソシテ是等工業動員令ノ下ニアル各種ノ工場ハ、今ヤ、ソレガ爲メニ莫大ナ利益ヲ舉ゲテ居ルガ、一旦戰爭ガ終末ヲ告グルト、其ノ利益ノ大部分ヲ失フ一方ニ、戰爭ノ刺戟デ格外ニ膨脹シタ諸般ノ設備ナリ、仕掛ナリヲ俄ニ平時狀態ニ引キ直スコトガ決シテ容易デナイトイフ困難モ、亦加ハルノデアル。尤モ、平時ニナツテモ、尙ホ需要ノ多イモノハ、必ズシモ販路ニ窮スルトイフヤウナコトハナイガ、ソレニシテモ、此轉化ニ際シテ發生シ來ル生産費ノ膨脹ヲ免レ得ナイノハ、恐ラク一般ノコトデアラウ。

二二

尤モ、戰後ノ歐洲諸國ニ於ケル企業ノ盛衰ハ、此先キノ戰爭ノ成行如何ト戰爭ノ終局ノ勝敗如何トニヨツテ、大分違ツテクル、此先キ戰爭ノ終局ガ早ケレバ早イホド、戰後ノ企業ニ及ボス影響ガ輕クナル。又結局ノ勝敗如何ニヨツテ、同ジ交戰國ノ内デモ、最後ノ勝利ヲ占メタ國ハ、受クル打撃ガ輕ク、然ラザル國ハ、受クル打撃ガ重イ。殊ニ媾和條件ノ一ツトシテ、莫大ナル償金ヲ課セラル、コトニデモナルト、之ヲ

課セラル、戰敗國デハ、唯サヘ人氣ガ銷沈シテキル上ニ、一時ハ公債ニヨルニシテモ、結局ハ更ニ國民ノ膏血ヲ搾ルトコロノ租税ノ誅求ニヨラネバナラス償金ノ支拂ノ爲メニ、企業界ハ一般ニ著シイ沈衰ヲ免レナイノデアル。ソレデモ、國民ノ元氣ニシテ衰ヘナイ限リハ、戰爭ノ失敗ヲ、戰後ノ商戰デ取り返サウトイフ勇猛ナ試ミガ、基トナツテ、毫モ企業界ノ畏縮ヲ見ナイトイフ結果ヲ現ハスコトモアルデアラウガ、ソレモ負擔スベキ戰費ヤ償金ノ高次第ニヨルトコロデアルシ、又戰費ノ負擔ニ更ニ加フル償金ノ負擔ガ、自カラ諸種ノ租税殊ニ關税ノ増徴ヲ餘儀ナクセシムルカラ、勢ヒ斯國ニ於ケル一切ノ事業ノ生産費ノ増加ヲ免レナイトイフコトガ、企業經營ノ困難ヲ加フル原因トナラザルヲ得ナイ。

之ト反對ニ、戰捷國デハ、戰後ノ人氣ガ一段ト上ル。ソノ上ニ、更ニ莫大ナ償金ヲ得ルコトニデモナルト、一層人氣ノ興奮ヲ見ルノデアアル。獲ベキ償金ヲ見越シテノ購買力ノ増加ノ豫想ガ、各種ノ企業ヲシテ盛ンニ活躍ヲ試ミルニ至ラシムルニ相違ナイ。ガ然シ、斯様ナ償金ノ流入トイフ盛ンナル「アルコール」ノ注射ハ、一時ハ企業界ヲ極度ニ興奮セシメテモ、ソレガ間モナク沈衰ノ反動ヲ見ルニ至ルコトハ、遠クハ普佛戰爭後ノ獨逸企業界近クハ日清戰爭後ノ我ガ企業界ノ事例ニ徴シテ明カナ

ルトコロデアル。結局、戰爭トイフ一大魔者ニ襲ハレタル交戰國デハ、經濟上ノ戰後經營ニ、餘程ノ手腕家ヲ出サル限り、勝敗ノ區別ハアツテモ、又償金授受ノ差別ハアツテモ、ソレハ唯企業ノ沈衰期ニ前後ノ別ヲ造ル丈ケノコトデ、何レカ戰後ノ企業ニ、大ナル打撃ヲ被ラズシテハ止マヌノデアル。

一一三

斯クイフ說ニ對シテ、他ニ又一種ノ觀察ガアル。試ミニ其ノ大要ヲ紹介シテ見ルト、カウデアル。

今回ノ戰爭後ニ、世界ノ經濟狀態ガ如何ニ變化スベキカハ、固ヨリ豫知スルヲ得ナイガ、終局ノ勝敗如何ニ拘ハラズ、各交戰國トモニ、戰爭ニヨツテ受ケタル創痍ヲ癒シ、其ノ國力ヲ恢復セムガ爲メニ、經濟上ニ於テ、益々奮發努力スルコト丈ケハ疑ヲ容レナイ。ソコデ、戰後ニ於ケル世界ノ經濟戰ハ、戰前ニ比シテ、更ニ一層激烈ヲ極ムルモノダト想像セザルヲ得ナイ。又何レノ交戰國モ、今カラ既ニ其ノ準備ニ怠ラナイ位デアルカラ、一旦平和ガ克復スル曉ニハ、所謂捲土重來ノ勢ヒデ世界ノ經濟戰爭場裡ニ押シ寄セテクルニ相違ナイ。交戰國ニ於ケル諸般ノ企業ハ、戰後ニ畏縮スルドコロカ、戰前ニ比シテ、更ニ一層ノ殷盛ヲ加フルモノダトイ

フコトモ、此當然ノ結果トシテ、豫想シ得ルトコロデアル云々。
トイフノデアル。

此種ノ觀察ハ、戰後トイフモノニ、相當ノ期間ヲ置イテ考フレバ、大體ニ於テ、肯綮ニ中ツテ居ルモノダト承認スルヲ躊躇シナイガ、サモナイト、此觀察ニハ戰時ニ於ケル諸交戰國ノ資本、勞力及ビ其ノ他ノ生産機關ノ破壊竝ニ戰後ニ於ケル諸交戰國ノ經濟ノ負擔ノ加重ヲアマリニ輕視シテ居ルト同時ニ、其又當然ノ結果トシテ戰後ニ於ケル是等諸交戰國ノ生産力ノ復舊ヲアマリニ樂觀シ過ギテ居ルカノ憾ガアル。尤モ、今回ノ戰爭ハ、主トシテ世界ノ貸金國間ノ戰爭デアルカラ、日露戰爭ノヤウナ、世界ノ借金國間ノ戰爭ノ如クニ、借金ヲ重ネテノ戰爭トハ、戰後ニ於ケル經濟的打撃ノ性質ニ大分ノ差ガアル。又今回ハ交戰國雙方トモニ既ニ巨額ノ戰費ヲ支出シテ、ソレ丈ケ平素ノ資本ヲ破壊シ去ツタトハイヘ、其ノ大部分ハ、各其ノ國政府ノ手ヲ通ジテ、國內ノ一部カラ他部ニ分散セラレタ丈ケデ、國外ニ飛散シタ高ハ左マデ大ナル割合デナイカラ、戰費ニ化シタ資本ノ大部分ハ、廻リ廻ツテ、追々其ノ國ノ資本ニ還元スベキ性質ノモノデアル。ガ然シ、此戰爭ハ此後何時納ルニシテモ戰費トシテ過去二十箇月ノ間ニ既ニ支出シタ丈ケノ金額デモ、敵味方合シテ、彼レ

是レ八百億圓ニモ達シテキル。ソコデ、假令ヒ一時タリトモ、是等交戰國ノ資本ヲ破壊シ去ツタ高ハ、古今未曾有ノモノタルニ相違ナイ上ニ、ソレ丈ケノ金融ノ變化ガ正調ニ復スルコトモ、亦決シテ短小日月ノ能クスルトコロデナイ。加之、戰爭ガ濟ンデモ、戰後ニ至レバ、此莫大ナル戰費支辨ノ主タル財源デアツタ戰時公債ヤ一時借入金ノ元利支拂ノ爲メニ、各國共ニ増税ノ必要ニ迫ラル、一方ニ、何レハ戰爭中極端ニ膨脹シタ通貨ノ收縮ヲ餘儀ナクセラル、ニ搗テ、加ヘテ、軍備ノ補充及ビ擴張、各種ノ復舊工事、其ノ他諸般ノ戰後經營ニ更ニ巨額ノ資金ヲ要スルカラ、自カラ生産及ビ運轉資本ノ缺乏ヲ來シ、從テ金利ノ騰貴ヲ致スノ結果、當然ノ成行トシテ企業上ニモ、又貿易上ニモ、種々ノ故障ヲ起サルヲ得ナイ。ダカラ、戰後ニ於ケル歐洲資本ノ復舊力、從テ生ズル戰後ニ於ケル歐洲諸國ノ經濟ノ恢復力ハ、日露戰爭ニ苦シメラレタ日本人ナドノ想像以上ニ迅速ナルモノナルヲ疑ハナイガ、サリトテ戰後間モナク、全然舊態ニ復シ得ルモノト考フルノモ早計デアル。何レニシテモ、戰後ノ歐洲ガ直チニ戰前ノ歐洲ノ如クニ、一般企業ノ殷盛ヲ見ルモノトハ思ハレナイ。少クトモ、金利及ビ賃銀ノ騰貴、各種ノ租稅殊ニ關稅ノ重課、交通機關ノ不備ト不廉等ニヨル生産費ノ増加ガ、世界經濟場裡ニ於ケル歐洲企業ノ競争力ノ上ニ、戰前

ニ比シテハ、不利ノ影響ヲ齎シ來ルモノト見ネバナラヌ。ソコデ、ソレガ原因トナツテ、假令ヒ一時タリトモ、是等歐洲諸國ニ於ケル一般企業ノ上ニ、畏縮ノ傾向ヲ帶ビザルヲ得ナイノデアル。

二四

昨今我國デハ、尊獨病カラ一轉シテ、恐獨病トイフモノガ流行シテキル。然シ、ソレハ獨リ我國ノミデナイ。英吉利アタリデモ、獨逸ガ意外ニ強イトイフコト、ソシテ、ソレハ、兵力上ノミナラズ、金力上ニ於テモ、將又一般ノ生産力及ビ經濟力上ニ於テモ意外ニ強イトイフコトニ就テ、少カラズ恐レヲ成シテキルヤウデアル。獨逸ハ戰爭前ニ戰爭ニ關スル經濟上ノ準備ヲ充分ニ致シテ居ツタ如クニ、戰爭中カラ戰爭後ニ對スル經濟上ノ準備ヲ厚フシテキル恐ルベキ國デアルトイフ感想ガ、今更ナガラ、英吉利人ニ激シイ恐獨病ヲ起サシメテキルヤウデアル。現ニ、獨逸デハ戰後直チニ英吉利ヲ初メ各國ノ市場ニ向ツテ「ダンピング」ヲヤル爲メニ、今ヤ盛ニ各種ノ製造工業ニ努メツ、アリトマデノ評判ガ、英吉利ニ於テ益々高ク成ツテキタ。此恐獨病ヤ、又此ノ評判ナドガ基トナツテ、昨今英吉利デハ保護貿易的色彩ガ著シク濃厚ニ成ツテ來タカノ如クデアル。ガ然シ、此種ノ評判ハ「エコノミスト」(Economist, March 8, 1916, P. 543)モ警告シテキルガ如ク、幾分割引シテ考ヘネバナラヌモノデアル。

戰時及ビ戰後ノ獨逸ニ於ケル資本ノ缺乏トイフコトヲ暫ク別ニシテモ、今ヤ獨逸ノ工業ハ、原料ニ於テ決シテ平生ノ如ク豐富ナル地位ニアルモノデハナイ。鐵ト石炭ト丈ケハ今デモ豐富デアルガ、第一ニ銅ガ不足デアリ、又棉花、羊毛、生絲、皮革、護謨、油、バルブ等ニ於テモ不足デアル。勿論、是等ノ物品中、今尙ホ盛ンニ密輸入ヲ試ミツ、アルモノモアレバ、又化學ノ力デ代用物ヲ調ヘテキルモノモアル。ガ然シ、ソレハ軍用品ノ製造ヲ初メ戰時ノ急ニ應ズル程度ノモノガ多イヤウデアル。未ダ之ヲ以テ戰後ノ「ダンピング」品ヲ製造スルマデノ餘力アルモノトハ見ラレナイ。尤モ、同ジ製造工業ノ内デモ原料ヨリモ勞力ニ依ルトコロ大ナル他ノ種ノ工業、例ヘバ、樂器ヤ、學用品ヤ、玩具ハ、相當ニ製造シテ居ルシ又戰時工業ノ副產物トシテ特ニ多量ノ原料ヲ產スルニ至ツタ染料、藥品等ノ化學工業品ハ、今デモ盛ニ製造シツ、アルヤウデアルカラ、是等獨逸特有ノ工業品ハ、戰後直ニ世界ノ各市場ニ向テ盛ンナル「ダンピング」ヲ試ミルモノト見ル方ガ安全デアル。ガ然シ、其ノ他ノ輸出工業品ニ至ツテハ、原料及ビ勞力ノ不足デ、今ヤ殆ンド全ク休止ノ狀態ニ在ルモノモ少クナイヤウデアル。奧太利ナドデハ、各種ノ製造工場ガ、殆ンド平生ノ一割餘リシカ平生ノ通りニハ運轉シテ居ナイトイフ。瑞西ノ新聞ノ報導ヲ信ジナイマデモ、稍々之ニ類スル狀況ニ在ルカモ知レヌ。獨逸デハ、左様ノコトハ、勿論ナイシ、又政府デハ各種工

業ノ原料ノ不足ヲ憂ヒテ、近頃新ニ官立ノ「原料購入中央局」[Rohstoffeinkaufszentrale]ナルモノヲ設ケ、政府ノ手デ、外國カラ盛シニ原料ヲ集メ、之ヲ諸工業ニ分配スルコトトナツテ居ルトイフガ、ソレガドレ程マデノ功ヲ奏スルカバ、今ノトコロ、尙ホ疑問デアルシ、又ソレガ、ソレ程マデニ原料ニ窮シツ、アルコトヲ證明スルモノデハアルマイカ。又獨逸政府ハ、平和克復トナルヤ、戰時中原料ノ缺乏ニ苦シンダ自國ノ工業者等ガ、爭ツテ原料ヲ外國ニ求メ、其ノ極、無用ノ競爭ト投機ヲ惹起シ、遂ニ市價ノ奔騰ト正貨ノ流出ヲ激成セムコトヲ恐レ、此機關ニ、外國ヨリノ原料輸入ニ關スル獨占權ト、國內各工場ヘノ分配方ニ付テノ全權トヲ有セシメ、工場ノ大小、原料ノ現在高及ビ原料需要ノ緩急等ヲ精査シタ後、之ヲ引渡スコト、致シタトモ傳ヘラレテキル。此事タル、獨逸ガ如何ニ戰時及ビ戰後ニ於ケル工業ノ原料ニ苦心セザルベカラザル狀況ニ在ルモノナルカヲ説明スルモノデハアルマイカ。現ニ彼ノ *Riesser*ノ如キモ獨逸經濟ノ將來ニ關シ、此春マンハイムニ於テ試ミタ講演ノ一節デ、

此戰爭終結後一定ノ期間ハ、獨逸ニトツテ、最モ困難ナル時期デアアル。從ツテ此間コソ、獨逸國民ガ最モ努力スルヲ要スル時期デアアル。即チ此間獨逸ハ工業ノ經營上、差當リ多額ノ原料ヲ輸入セネバナラヌ。ソコデ、之レガ爲メニ金利ハ騰貴スル爲替ハ逆調ニナル。尤モ此期間ノ長短如何ハ、全ク戰局ノ推移如何ニヨル譯デア

ルカラ、今遽ニ斷言スルコトガ出來ヌ、云々。

ト說イテ、一般商工業者ヲ訓戒シテキル。賢明ナル獨逸ガ、今カラ既ニ戰後ノ國際經濟戰ニ處スル準備ニ怠ラナイモノデアルコトハ、事實デアアルシ、從テ又我國ノ商工業者ガ之ニ應戰ノ用意ヲ厚フセネバナラスコトモ確カデアアルガ、唯一モ二モナク之ヲ恐レテ自カラ畏縮シ、後進國タル我日本ニトリ、國際競爭上復トナキ好機會タル此戰後ノ數年ヲ逸スルコトハ、莫々モ誠メネバナラス。

一一五

今ヤ我國ハ政治上ニ於テハ交戰國ニ相違ナイガ、經濟上デハ其ノ實中立國タルコト、彼ノ米國ト殆ンド異ナルナシデアアル。ソコデ、我國ハ、時局ニ方ツテ、毫モ資本勞力ノ缺乏ヲ來サルノミカ、勞力ノ如キハ、軍需品ノ注文、代用品ノ製造、其他時局ニヨツテ多大ナル刺戟ヲ受ケタル新工業ノ發生及ビ發達ニヨツテ、一時ニ熟練ヲ加ヘ、經驗ヲ重ネテ、其ノ勞働功程ノ上ニ急速ノ進歩ヲ見ルニ至ツタノミナラズ、貿易上ノ出超、兵器軍艦ノ賣却、船舶ノ賃貸及ビ其ノ他ノ原因ニヨツテ、遽ニ在外正貨ノ膨脹ヲ告ゲタガ爲メ、戰前ニ比シ、却テ一般ニ資金ノ潤澤ヲ來タシ、金利ノ下落ヲ見多年正貨ノ維持ニ苦心シタル其ノ反對ニ、今ヤ國ヲ舉ゲテ正貨ノ處分ニ焦慮スルトイフガ如キ意外ナル成行ヲ呈スルニ至ツタ。又海國タル我國デハ、對外貿易上、唯

一ノ交通機關トモ謂フベキ船舶ハ、交戰國タルノ故ヲ以テ、幾分ノ損傷ヲ被ツタガ
之ヲ歐洲ノ諸交戰國ニ比スレバ、物ノ數ニアラザルノミカ、時局ノ刺戟ニヨリ、此間
却テ異常ナル増加ヲ見ルニ至ツタ。尙ホ船舶ノ新造ニ就テハ、今ヤ各工場與ニ其ノ
全力ヲ傾注シテ居ルノデアルカラ、戰後ノ對外交通機關ハ過剩ヲ見ルトモ、決シテ
不足ヲ告グルモノデナイ、少クトモ歐洲諸國ニ比シテ不足ヲ告グルモノデナイト
イフコトガ、又戰後ノ國際經濟戰ニ於テ、我國ノ貿易ヲ有利ニ導ク一大要素タラザ
ルヲ得ナイノデアル。

尤モ、今ヤ萬事ガ世界ニ於ケル日本デアル。經濟上ニ於テハ、尙ホ更ラ世界經濟上
ニ於ケル日本ノ經濟デアル。ダカラ平和克復後ノ世界經濟ノ波動ヲ、我國ノミ獨リ
受ケヌトイフ道理ハナイ。然シ、我國現下ノ生産組織ハ、歐洲諸國ホド戰時狀態ニ深
入リシテナイカラ、戰時カラ平時ニ移ル過渡時代ニ於テモ、歐洲諸國ホドノ激シイ
動搖ヲ見ル筈ガナイ。全然軍需品ノ製造ヲ目的トシテ起ツタ事業、又ハ智識經驗ノ
尙ホ淺薄タルヲ免レナイ新事業ノ内ニハ、戰後ノ打擊ヲ免レナイモノアルハ勿論
デアルガ、全體ニ於テハ、之ヲ歐米諸國ニ比シ動搖ノ程度遙ニ微弱ナルモノト見ザ
ルヲ得ナイノデアル。之レガ又戰後ノ國際經濟戰ニ對スル準備ヲ爲ス上ニ就テ少
カラズ我國ヲ有利ニ導クモノデアラネバナラヌ。(未完)